

昭和医科大学 国際交流センター

NEWSLETTER

vol.01 2025年6月

国際交流センター長ご挨拶



センター長 宮崎隆

長引いたコロナ禍が沈静化して、本学における国際交流活動はコロナ禍以前同様に活発になってきました。学部留学生・大学院留学生の受入れも再開して、多様な国から留学生を迎えています。現在、国際交流センターでは職員の海外渡航・留学の支援に加えて、学部学生の国際交流活動の活性化を進めています。新しいプログラムを準備しているの、多くの学生に参加していただきたいと思います。本ニュースレターで職員、学生、大学関係者に国際交流センターのアップToDateな情報を提供したいと考えていますので、ご活用をお願いいたします。

国際交流センター紹介

医系総合大学である昭和医科大学では、医療人の教育、医学ならびに関連分野の研究、そして、医療活動に国際的な視野を持ち取り組んでいます。

国際交流センターは、日本の医療技術・研究を学びたいと希望する海外の医療従事者/学生を対象とした研修事業実施のために、受け入れ部署との調整拠点として機能するとともに、本学学生の海外選択実習の実施を推進するために、各学部と連絡を密にとり、協定校を増やし学生の参加を推奨しています。また、国際交流プログラムや短期海外研修の企画・実施に積極的に取り組んでおり、国際的な視野を持つ医療人の育成を目指しています。



准教授
Michael W. Myers

講師
古田厚子

学事課
右近美恵子

プログラム
コーディネーター
平泉由香

学事課
鈴木多恵子

学事課
三浦健

センター長
宮崎隆

教授
土屋静馬

教授
工藤芳子

富士吉田キャンパス国際交流イベント



富士吉田キャンパスでは、これまで「国際化ウィーク」を設定し取り組みを進めてきましたが、本年度より1年間を通した活動を展開しています。4月のオリエンテーション期間には、宮崎センター長による特別セミナー「若者よ、世界に飛躍せよ」が開催されました。日本の国際競争力が低下する中、昭和医科大学に入学した学生達には、世界の若者と積極的に交流し、国際的な視野を持った医療人を目指して欲しいという熱意あふれるメッセージが届けられました。実際の交流事業として、5月は保健医療学部に来学するワライラック大学（タイ）留学生、6月には薬学部に来学するマハサラカム大学（タイ）、オルバニー薬科大学（米国）留学生が富士吉田キャンパスを訪問しました。留学生との交流を行うSIプログラムの応募者は定員の2倍に達するなど、富士吉田の学生の関心の高さがうかがえます。

学生交流事業 留学生によるプレゼンテーション



各学部では留学生と本学学生が交流できるように、研修期間中に留学生によるプレゼンテーションの機会を設けています。また、国際交流センター主催のチャット・クラブにおいてもミニ・プレゼンテーションの機会を設けており、学部にとらわれず自由に学生が参加しています。発表内容は、出身大学、母国、文化についてなど様々で、それぞれの個性がよく表れた発表であり、参加した本学学生にとっては、留学生から発表の仕方を学べる良い機会であると共に、将来の海外実習にむけた情報収集の好機となっています。

4月9日	水	King's College London歯学部学部留学生によるプレゼンテーション
4月23日	水	ウィーン医科大学歯学部学部留学生によるプレゼンテーション
5月19日	月	薬学部合同セミナー
5月21日	水	ロンドン大学クィーンメアリ校医学部留学生によるプレゼンテーション
6月4日	水	チュラロンコン大学歯学部学部留学生によるプレゼンテーション

研修報告 3月 第1回 IEC主催 カンボジアスタディーツアー

開発途上国における国際協力の実際を知ること、他国と日本の医療制度を比較して学ぶことを目的として 3月22～29日に、カンボジアの首都プノンペンとシムリアップ州を訪れました。医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部、富士吉田教育部から1～4年生13人が参加し、カンボジア国のパートナー校である私立プシサストラ大学の同4学部12名の学生と共に研修し、多くのことを学びました。プログラムではJICAカンボジア事務所を訪問し、日本ODA概論を学習し、各論として非感染症対策プロジェクトを実施している医師から課題と活動の内容を伺いました。NGOの活動事例には、現地でハーブティーの会社を立ち上げ、共に働く地域住民の収入と自立をサポートする日本人より活動を紹介していただきました。シムリアップ州では、JICAボランティアの方々方が教育を行う小学校を訪問し、音楽と体育の授業に参加させていただくと共に、プシサストラ大学学生のリードで子供たちに対して手洗いと歯磨きの衛生教育を行いました。世界遺産であるアンコールワットも見学しました。カンボジアの首都と地方の大きな違いを体験すると共に、医療を学ぶことに対する強い意志を持つカンボジアの大学生から熱い歓迎と多くの刺激を受けた忘れられない1週間となりました。



距離は遠くても友情は続きます



小学校で衛生教育

研修報告 4・5月 保健医療学部協定校であるタイのワライラック大学 看護学部と保健医療学部の学生が研修を行いました。

【4月】保健医療学部 臨床検査科の学生40名と教員8名をお迎えしました。

4月11日の午後半日の短い時間でしたが、1. 病院臨床検査室の見学、2. 上條記念ミュージアムの見学、3. 茶道の体験の3つのプログラムを4つのグループに分かれて研修しました。臨床検査室では、超音波検査や心電図検査などを臨床検査技師の方々が実技を交えて紹介してくださり、タイ臨床検査技師が行うことが出来ない生理学検査を行う日本の臨床検査技師業務に驚いていました。また、上條記念ミュージアムでは本学の歴史とあたたかさに触れ、茶道体験では実際に「本物のお抹茶」を味わい、日本文化と少しのゆとりを感じるプログラムとなりました。



1号館前で記念撮影



富士吉田キャンパスで1年生とBBQを楽しみました

【5月】看護学部学生6名と保健医療学部理学療法学科の学生8名と教員4名をお迎えしました。

日本の医療を学習し視野を広げることを目的として5月11日から16日までの6日間に研修を実施しました。研修では、看護科学生は江東豊洲病院で、理学療法学科学生は藤が丘病院で見学を行いました。また、高齢化社会をテーマとして看護学科教員の講義を受講した後、医療財団法人ユニメディコ様のご協力にて在宅型老人ホームにおける地域医療介護見学が行われ、両国の医療の違いを学びました。旗の台キャンパスでは、医学部生理学講座生体制御学部門による東洋医学の講義と演習を受講しました。横浜キャンパスでは、キャンパスツアー、学生主導の日本文化体験イベントも開催されました。最後に、富士吉田キャンパスへ訪問し1年生との交流として学生主催のアクティビティーとBBQを楽しみ、寮の体験宿泊をしました。8月には本学保健医療学部学生が海外実習としてワライラック大学を訪問する交換プログラムが実施されます。

【学生教育】海外選択実習の現場から：協定校 ウィーン医科大学、リヨン大学 訪問報告

2025年3月下旬、国際交流センターは、協定校であるウィーン医科大学（オーストリア）およびリヨン第1大学（フランス）を訪問しました。各大学の医学部長、国際交流担当者、さらに学部学生の海外選択実習を受け入れている診療科の教員らと意見交換を行い、両校の交換留学生にとってより実りある臨床実習の実現に向けた連携強化を図りました。ウィーン医科大学とは2005年の協定締結以来、約20年にわたる継続的な交流があります。今回の訪問では、言語や文化の壁を越えた学びの支援として、学生個々の背景や希望についての情報共有、現地指導医との連携強化、サポート体制の充実など、より実践的かつ具体的な協力体制について議論が交わされました。また、リヨン第1大学では、EU圏内の医科大学間で単位互換が進み、学生が国境を越えて学ぶ環境が整備されている現状について情報共有がなされました。そうした多様な文化のなかでも、本学学生の積極性と高い適応力は高く評価されており、受け入れ側からの期待も高まっています。今後も学生・教員双方の国際的な学びと協働の場を広げ、実践的な国際教育の充実に取り組んでまいります。



ウィーン医科大学の実習先の1つ：心臓血管外科教室



リヨン第1大学：Paparel 医学部長と国際交流担当の教授陣



国際交流部の教員と本学学生

指導医に積極的に質問



呼吸器内科で充実した臨床実習



↑リヨン第1大学HPにも訪問の様子が掲載されました！（QRコード参照）

天津医科大学との人材交流 強化へ



2025年4月9日、本学と学部間協定を結ぶ天津医科大学より、学長のHao教授（膵臓がん治療専門医）をはじめ、天津医科大学付属がん病院（TMUCIH）の主要診療部門の教授7名が来校されました。本学からは宮崎隆国際交流センター長、林直輝教授、山上裕機教授を含む10名が出席し、両校の国際交流活動の情報共有と、連携強化の一環として、今後のがん治療領域における人材育成や共同研究の可能性について活発な意見交換が行われました。特に膵臓がん治療分野における協力に関心が高く、専門的かつ継続的な連携が期待されます。

キルギス共和国代表団が来校



2025年4月25日、キルギス共和国から現職国会議員 Chingiz氏、大統領補佐官 Arslan氏を含む5名が来校され、医療分野の技術連携と人材交流について意見交換を行いました。本学からは脳機能解析・デジタル医学研究所 佐藤洋輔教授、国際交流センター 土屋静馬教授ら7名が出席し、昭和医科大学の概要や国際交流活動、AIを活用したリアルタイム立体映像変換技術や裸眼3Dディスプレイなど、最先端研究について説明しました。キルギス側からは日本の高度な医療技術に対する強い関心と、本学との継続的な連携への期待が示されました。

学部留学生受け入れ報告

昭和医科大学では姉妹校や学部間協定校との間で学部学生の交換留学を行っており、年間を通じて多くの留学生を受け入れています。病院内での臨床実習・見学を中心に、各学部多くの教育職員のご指導をいただいています。ご尽力いただいている教育職員の皆様ありがとうございます。

今回は今年1月～6月までの留学生受け入れ状況をご報告いたします。

7月以降も多くの留学生を受け入れる予定ですので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

学部	受け入れ部署	所属機関 (国名)	人数	受入れ期間
医学部	昭和大学病院 循環器内科	ハワイ大学 (アメリカ)	2名	1月6日(月)～ 1月31日(金)
	昭和大学病院 麻酔科			2月3日(月)～ 2月28日(金)
	昭和大学病院 腫瘍内科	UCLA (アメリカ)	2名	2月3日(月)～ 2月21日(金)
	横浜市北部病院 腫瘍内科			
	昭和大学病院 整形外科 藤が丘病院 形成外科	サラゴサ大学 (スペイン)	2名	2月3日(月)～ 3月28日(金)
	昭和大学病院 小児内科 東病院 脳神経内科			
	東病院 眼科	ロンドン大学 クィーンメアリー校 (イギリス)	1名	4月14日(月)～ 5月23日(金)
	昭和医科大学病院 放射線科	マヒドン大学 (タイ)	1名	5月7日(水)～ 5月16日(金)
計			8名	
歯学部	歯学部交換留学	ロンドン大学 キングズ・カレッジ・ ロンドン(イギリス)	2名	4月7日(月)～ 4月11日(金)
		ウィーン医科大学 (オーストリア)	1名	4月7日(月)～ 4月25日(金)
		チュラロンコン大学 (タイ)	4名	6月2日(月)～ 6月6日(金)
計			7名	
薬学部	薬学部交換留学	台北医学大学 (台湾)	1名	2月3日(月)～ 3月7日(金)
		マハサラカム大学 (タイ)	2名	5月12日(月)～ 6月20日(金)
		オルバニー薬科大学 (アメリカ)	2名	5月19日(月)～ 6月27日(金)
計			5名	
保健医療学部	看護学科	ワライラック大学 (タイ)	6名	5月11日(日)～ 5月16日(金)
	リハビリテーション学科 理学療法専攻		8名	
計			14名	



実習終了時には学部長や国際交流委員長およびご指導いただいた先生方による修了証授与式を行なっています。

医学部



歯学部



薬学部



*保健医療学部の活動は2ページをご覧ください。



お問い合わせ：
昭和医科大学 国際交流センター
東京都品川区旗の台1-5-8
電話: 03-3784-8266
Email: int-exc@ofc.showa-u.ac.jp

編集後記

🌸ニュースレターを始めました🌸

「国際交流センターって何をしているところ？」という質問を多く頂戴したので、皆様に活動を知っていただくため、また国際交流に貢献いただいている多くの職員の皆さんの活動をご紹介しますためにニュースレターを始めました。今回は国際交流センターの紹介、国際交流イベントの報告を中心にお届けしました。国際交流センターの活動を知っていただき、皆さまの国際交流活動の一助となれば幸いです。

次号もどうぞお楽しみに！(古田厚子)